

■密使と渡し守 (六卷)

帝キネ旬屋時代映畫

原作並脚色者

小國 狂二氏

監督者

山下 秀一氏

撮影者

高橋 武助氏

石本信次郎

中村 翫曉氏

渡守 權助

片岡 童十郎氏

無頼漢 勘太

中村 獅歌平氏

茶屋女 お雪

松枝 鶴子嬢

勘助の娘 お吉

柳 まさ子嬢

前田龍之助

松本 田三郎氏

〔略筋〕勤王志士前田龍之助は密書を携へて京洛へ急ぐ途中密書を奪はれんとしたが、渡守權助父娘の情に救われた。娘は前田に戀する様になつた。娘は横戀慕してゐた無頼漢の訴へに多數の捕史は迫つたが父娘の必死の働きに志士前田は密書を京洛の同志に渡す事が出来た。

幕末劇に「佐倉義民傳」の甚兵衛の件りを纏へた様な物語で極く平凡なつまらない映畫である。密使前田龍之助に譯もなく戀する二人の女など個性も何もあつたものでない。只もう安價な意味なしのラゲシオンを開きせるのみである。脚色も監督も評すに價値更にならぬ商品である。注文に應じて作つた位の精神で製作したものと思へない。松本三郎氏の前田龍之助は何時か云ふ通り、ただのつべりして居る丈で力強さがない殊にこんな役ではそれが目に立つて來る。松枝鶴子嬢のお雪は氣の毒な程意味のない役で殺されて居る。一番無難なのは片岡童十郎氏の權助であつた。技術方面も平凡の出来である。

山本 綠葉

興行價値——スターは出て居るが題名も内容も添もの程度を出ない作品である。(八月十九日大阪芦送劇場 いろは座 神戸相生座 京都キネマ倶楽部封切)